

**米国大統領選 指名争い初戦のアイオワ州党员集会の見どころ**

今年 11 月の米国大統領選に向けた民主、共和両党の指名争いの初戦となるアイオワ州党员集会在本日 2 月 1 日夜、州内 1,681 箇所で行われる。1 月 30 日発表の地元紙の最新世論調査によれば、共和党は首位が不動産王ドナルド・トランプ氏で党支持層の支持率は 28% で 2 位の保守強硬派のテッド・クルーズ上院議員と 5 ポイント差。民主党はヒラリー・クリントン前国務長官が 45% で「民主社会主義者」を自称するバーニー・サンダース上院議員と 3 ポイント差。両党とも大接戦である。以下、今夜の民主・共和両党のアイオワ州党员集会の見どころ、党员集会とその後の指名争いの展望をまとめてみた。

**1. 共和党**

**(1) 党员集会直前のアイオワ州ではトランプ氏が首位、追うクルーズ氏**

**図表 1 アイオワ州・共和党の 2016 年大統領候補の支持率**

			年齢	RCP Average		DM Register	NBC/WSJ	PPP (D)	Gravis
				1/21 - 1/29	1/26 - 1/29	/Bloomberg	/Marist	1/26 - 1/27	1/26 - 1/27
1	トランプ	不動産王	69	<b>30.8</b>	<b>28</b>		<u>32</u>	<u>31</u>	<u>31</u>
2	クルーズ	上院議員 (TX)	45	<b>24.5</b>	<b>23</b>		25	23	27
3	ルビオ	上院議員 (FL)	44	<b>14.5</b>	<b>15</b>		18	14	13
4	カーソン	著述家、元神経外科医	64	<b>8.5</b>	<b>10</b>		8	9	7
5	プッシュ	元フロリダ州知事	62	<b>3.8</b>	<b>2</b>		4	4	6
6	ポール	上院議員 (KY)	53	<b>3.3</b>	<b>5</b>		2	4	2
7	クリスティー	ニュージャージー州知事	53	<b>2.7</b>	<b>3</b>		2	2	3
8	ケーシック	オハイオ州知事	63	<b>2.7</b>	<b>2</b>		2	2	4
9	ハッカビー	元アーカンソー州知事	60	<b>2.5</b>	<b>2</b>		2	4	2
10	フィオリーナ	元HP会長兼CEO	61	<b>2.2</b>	<b>2</b>		2	3	3
11	サントラム	元上院議員 (PA)	57	<b>1.0</b>	<b>2</b>		0	1	1

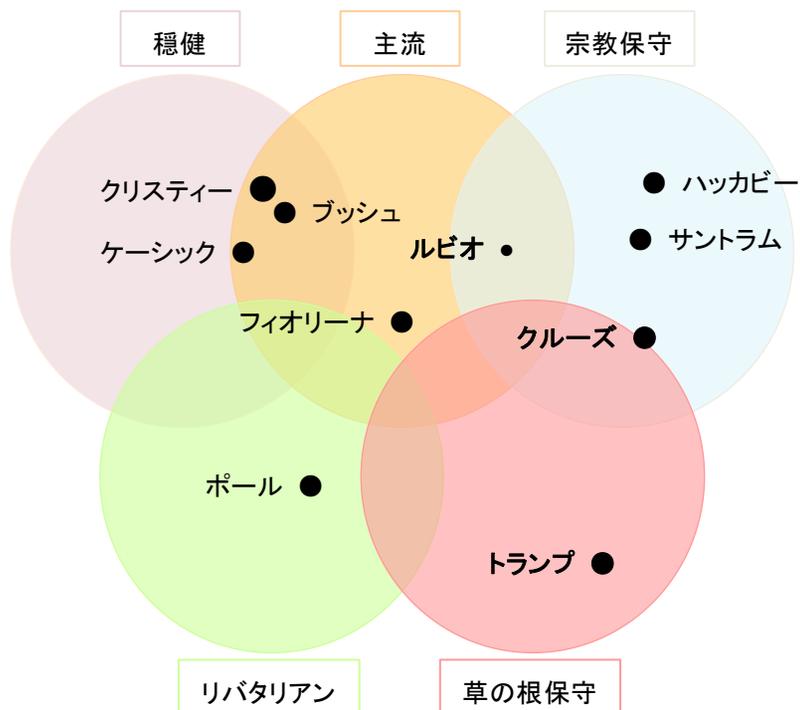
(注) 単位RCP=リアル・クリア・ポリティクス、主要世論調査平均。

(Source 出所) Real Clear Politics, <http://www.realclearpolitics.com>

アイオワ州に限れば、共和党の指名争いはトランプ氏とクルーズ氏の接戦が続いている。昨年 12 月中旬には同州できめ細かい集中的な選挙運動を繰り広げたクルーズ氏がトランプ氏を逆転して首位に立った。だが、1 月に入ってトランプ氏がカナダ生まれで父親がキューバ人だったクルーズ氏の出馬資格を疑問視するなど攻撃を強めると、クルーズ氏の支持は頭打ちになり同月中旬にはトランプ氏が再逆転。その後は、トランプ氏の支持率が 30% 前後に浮上してクルーズ氏に 5% 前後の差をつけている。

トランプ氏の支持基盤は草の根保守、クルーズ氏は宗教保守であり、下図に示したように両氏とも党主流派とは対立関係にある。アイオワ州の共和党は保守色が強く、2012年の党員集会では宗教保守派が支持基盤のサントラム元上院議員が勝った実績はある。だが、このときは共和党の指名を獲得した主流派のロムニー候補が僅差で2位を占めた。党内のアウトサイダーのトランプ氏とクルーズ氏が首位を争い、主流派候補がそろって苦戦する今回のアイオワ州の情勢は異例といえる。

図表 2 共和党の主要グループと大統領候補の位置づけ



(資料) Fivethirtyeight.com, A Graphic conception of the GOP field を筆者が編集。

もっとも、共和党の主流派候補の苦戦はアイオワ州に限らず全米共通である。共和党内で一定の勢力を占める草の根保守や宗教保守といった同党支持層は、オバマ政権・民主党の暴走を止められない共和党主流派に対する不満が高まって、怒りとなっている。なかでも草の根保守層は、最近の景気回復からも取り残されて苦しい生活が続くことも響き、怒りに拍車がかかっている。従来と異なり、指名争いにおいてルビオ氏やブッシュ元フロリダ州知事など主流派候補の支持が伸び悩んでいる最大の原因はここにある。逆に、この怒る草の根保守に応える発言を繰り返し、草の根保守を支持基盤とする唯一の大統領候補という地位を固めつつあるのがトランプ氏である。アイオワ州においても、トランプ氏のこの戦略が今のところ通じていると考えられる。

## (2) 党員集会の見どころはトランプ氏の実際の得票、順当なら勝利

問題は、これまでのトランプ氏の高い支持率が予備選・党員集会で実際の得票に結びつか、具体的には同氏の支持者がちゃんと党員集会に参加するかどうかである。従来の予備選・

党員集会では総じて草の根保守の投票率は高くなかった。党員集会という地区ごとに高校などに有権者が集まって支持する候補を決める方式のアイオワ州では、なおさらであったという。しかも、トランプ氏の陣営は、個々の支持者に接触して投票（集会参加）を働きかける「地上戦」と呼ばれる選挙運動にはあまり熱心でない。そのため、トランプ氏にとっては、支持者が党員集会にあまり参加せず、高い支持率が空振りに終わる恐れは残っている。

しかし、アイオワ州の党員集会に向けた共和党の有権者登録は伸びているというし、同州の状況を正確に織り込み、専門家が最も信頼できるという地元紙デモイン・レジスター等による世論調査は、前述のとおり1月30日にトランプ氏が首位で2位のクルーズ氏と5ポイント差という結果を発表している。しかも当面のトランプ氏のライバルであるクルーズ氏は、トランプ氏から大統領選への出馬資格を疑う攻撃を受けただけで支持が頭打ちになる脆さもみせている。支持者の党員集会への出席率では、トランプ氏だけが極端に低くなるとは考えにくく、トランプ氏がアイオワ州党員集会で勝つ可能性は高いと我々は予想する。

逆に可能性は低いとみるが、トランプ氏が敗れる場合は、同氏の高い支持率は見掛け倒しとの印象が強まる。しかもトランプ氏への支持には共和党支持層の中の勝てそうな候補を支持したいというバンドワゴン効果も含まれている可能性が高いため、アイオワ州で負ければ次のニューハンプシャー州以降の予備選でも同氏に強い逆風が吹く。

### (3) 第二の見どころはクルーズ氏とルビオ氏の戦いぶり

次の見どころは、支持率で2位のクルーズ氏と3位のルビオ氏が、どこまでトランプ氏に迫るか、クルーズ氏とルビオ氏の2位争いである。仮にクルーズ氏が下馬評を覆してトランプ氏を破れば、その後の指名争いへ弾みがつく。逆に大勢の予想通りに負ければ、ルビオ氏はアイオワ州での勝利に賭けた集中的な選挙運動をしているだけに、その後の失速の可能性が高まる。

ルビオ氏は、アイオワ州での勝利の可能性は非常に小さいが、現在の支持率を上回る善戦とできれば、ニューハンプシャー州以降への期待がつながるとい見方はある。アイオワ州でクルーズ氏が苦戦するようなら、指名争いはトランプ氏対ルビオ氏の構図に変わってくる可能性がある。それでもニューハンプシャー州はトランプ氏が2位以下に20ポイント以上の大差でリードしているだけに、同氏の勝利はまず動かない。その後のサウスカロライナ州以降にルビオ氏の可能性が残るだけである。主流派には希望が繋がる展開だが、そこからトランプ氏を追い上げる可能性は、この時点ではまだまだ限定的だろう。

逆にアイオワ州でクルーズ氏が破れ、ルビオ氏も低調に終わるようなら、いよいよトランプ氏に弾みがつく。ただ、その場合もトランプ氏の予備選での指名獲得まで見通しが立つわけではない。勝者総取り方式が始まる3月15日のフロリダ州まではトランプ氏が連勝の割には、獲得代議員数が伸び悩む可能性が残る。その場合はトランプ氏の勢い次第で、主流派がルビオ氏への候補の絞込みや7月中旬の全国党大会での決着を目指す動きなどが生じてくる可能性がある。今後のありうる展開については、今夜の党員集会の結果を踏まえて、改め

て整理することにした。

## 2. 民主党

### (1) 党员集会直前のアイオワ州ではクリントン氏が首位、僅差のサンダース氏

民主党は全米ではヒラリー・クリントン前国務長官が同党支持層の50%前後の支持を得て首位を走り、2位のサンダース氏が37%前後である。サンダース氏は善戦しているが、クリントン氏が13ポイント前後の差をつけて優位を保っている。だが、アイオワ州は共和党以上に接戦である。同じく1月30日に発表された地元紙デモイン・レジスターなどの世論調査によれば、クリントン氏の支持率は45%、サンダース氏は42%で3ポイントしか差がない。次の予備選が2月9日に行われるニューハンプシャー州はサンダース氏が首位を固めてクリントン氏に10数ポイントの差をつけているため、指名争い序盤の2州をサンダース氏が連勝する可能性を指摘する声もある。

図表3 アイオワ州・民主党の2016年大統領候補の支持率

			RCP Average	DM Register /Bloomberg	NBC/WSJ/ Marist	PPP (D)	Gravis
			1/18 - 1/29	1/26 - 1/29	1/24 - 1/26	1/26 - 1/27	1/26 - 1/27
1	クリントン	前国務長官	47.3	45	48	48	53
2	サンダース	上院議員(VT, 独立派)	44.0	42	45	40	42
3	オマリー	前メリーランド州知事	4.4	3	3	7	5

(注)単位RCP=リアル・クリア・ポリティクス、主要世論調査平均。

(Source 出所) Real Clear Politics, <http://www.realclearpolitics.com>

### (2) 民主党の見どころはサンダース氏の得票、順当ならクリントン氏が勝利へ

アイオワ州では、クリントン氏が年明けまで10ポイント前後の安定したリードを保っていたが、1月中旬からサンダース氏が猛追して接戦になり、一部の調査ではサンダース氏が逆転する結果も出ている。格差是正を強く訴え、富裕層への増税や国民皆保険、公立大学の無償化などを提唱するサンダース氏に民主党支持層のうちの若年層が共感していることが、同氏の猛追の大きな要因とみられる。クリントン氏は今秋の議会選を経ても共和党が多数派を占める可能性が高い下院などの条件を前提に現実的な対応を訴え、サンダース氏の提案を無責任と批判しているが、サンダース氏はワシントンでの駆け引きに明け暮れるのではなく、民主党の革命が必要と訴え、それが若年層に受けている面もある。この構図は、トランプ氏の大胆な発言が草の根保守に支持される共和党と共通点があるといえよう。

とはいえ、直近の世論調査をみると僅差の接戦とはいえ、サンダース氏の支持は頭打ちになり、クリントン氏が徐々に差を広げている傾向が読み取れる。民主党についても信頼されるデモイン・レジスター等の調査でもクリントン氏が3ポイント差とはいえ首位を堅持である。サンダース氏の猛追を受けて、クリントン陣営は州内各地での支持者への接触と働きかけを強めたといわれる。サンダース陣営も直接の働きかけに力を入れているが、陣営の充実振りではクリントン氏が優勢であり、党员集会前の最後のでこ入れで再び差を広げたと考え

られる。モメンタムではクリントン氏に分があると考えられる。

サンダース氏には、支持が広がる若年層の有権者登録の少なさという問題もある。共和党のトランプ氏と共通する問題だが、事前の有権者登録では民主党は共和党ほど伸びていないという報道もあり、こちらは得票の伸び悩みにつながりそうである。この問題を乗り越えてサンダース氏が黨員集会で勝つとは考えにくい。我々は、クリントン氏が僅差だが勝つと予想する。

一方で3ポイント差は世論調査の誤差の範囲内であり、両氏が大接戦であることは事実である。先週の両氏の論争では、サンダース氏の「革命」の訴えがクリントン氏の現実的な対応よりも党内で響いている感もあるだけに、サンダース氏の予想外の伸びとアイオワ州での勝利の可能性も否定はできない。

もっとも、仮にサンダース氏がアイオワ州とニューハンプシャー州で連勝しても、全米でのクリントン氏のリードが霧散するような指名争いの急変は考えにくい。サンダース氏の支持は民主党支持層の中で白人に偏り、黒人とヒスパニックではクリントン氏が逆に大きくリードしている。序盤2州は白人の構成比が多いこと、ニューハンプシャー州はサンダース氏の地元に近いことも考慮すると、もともとサンダース氏に有利な結果が出やすい州であるといえる。この2州で連勝すれば、サンダース氏にモメンタムが生じる可能性は高いが、その後指名争いでサンダース氏が勝利を重ねる可能性は低いと思われる。

逆にサンダース氏にとっては、序盤2州の連勝は全米での劣勢を跳ね返すためにも欠かせない条件だろう。その意味では、クリントン氏がアイオワ州で勝てば民主党の指名争いは、再びクリントン氏の指名確実、無風に近い情勢に戻っていく可能性が高い。党内有力者の大統領候補に対する推薦状況でも、クリントン氏がすでにサンダース氏を圧倒している。サンダース氏がアイオワ州で負けてもニューハンプシャー州で勝つ可能性は非常に高いが、その後の党内はクリントン氏の指名を早く決めようという声が広がって、サンダース氏の勢いが続きそうもないのである。最有力候補が党内主流派であり、党内の主流派への反発が限定的という点では、民主党は共和党とは極めて異なる状態にある。

なお、民主党についても今後のありうる展開については、今夜の黨員集会の結果を踏まえて、改めて整理することにした。当面、民主・共和両党の予備選・黨員集会の結果が出る度に我々は両党の指名争いの状況を整理して、報告していくことにしたい。

図表 4 スーパーチューズデーまでの予備選日程とその後の重要日程

<各党予備選・党员集会>	
2/1	Iowa
2/9	New Hampshire
2/20	Nevada <D>, South Carolina <R>
2/23	Nevada <R>
2/27	South Carolina <D>
3/1	<b>Super Tuesday &lt;D 12, R 13&gt;</b>
7/18	共和党全国大会(オハイオ州クリーブランド、-7/21)
7/25	民主党全国大会(ペンシルバニア州フィラデルフィア、日程未確定)
9/26	第1回 大統領選候補者討論会
10/4	副大統領候補討論会
10/9	第2回 大統領選候補者討論会
10/19	第3回 大統領選候補者討論会
11/8	大統領選・議会選投票日

以上／今村

本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、丸紅米国会社ワシントン事務所（以下、当事務所）はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。

本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当事務所は何らの責任を負うものではありません。

本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。

本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当事務所の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用および引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で、複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。